

古市公威氏の長逝を哀む



樞密顧問官男爵工學博士古市公威氏は腦溢血に心臓性喘息を併發し、二十日朝以來重症に陥り澁谷區常盤松一八の自邸で主治醫馬場辰二博士の治療を受けつゝあつたが、二十八日午前八時逝去した、享年八十一である。氏は姫路藩士古市孝の長男として安政元年に生れ、明治八年佛國に留學し同十三年歸朝後土木局雇、内務文部各省御用掛

内務技師、帝國大學教授、同學長、内務省土木技監、同土木局長、選信次官、同總務長官兼官房長、鐵道作業局長官などに歴任し、日露戰役の際東京鐵道總裁となり次に韓國統監府鐵道管理局長官に任ぜられた後官途に就くことをやめ實業界に入つた、同二十一年日本最初の工學博士となり同二十三年第一期の議會に貴族院議員に勅選せられ、大正八年には勳功により男爵を授けられた、なほ同十三年には樞密顧問官に親任せられ、東京帝國大學名譽教授帝國學士院會員として土木工業界の耆宿であつた。

我國の大きな土木事業には大概直接間接に關係してゐるが中でも横濱の岸壁工事と信濃川の改修工事は氏の決心のものとして生前得意としてゐた、また河川法の制定の際は、政府委員として大いにその成立に力めた。河川法が今日あるは氏の努力に負ふところが少くない。親世流の名手として相當名が聞えてゐた。家族は夫人との間に七男三女の子嗣者である。

氏の葬儀は二月一日青山葬場に於て佛式により營まれ、朝野の名士が多數參列して盛大に行はれた。

氏の如く土木界に於ける偉大なる存在が失はれたことは大いなる損失である。

茲に謹みて哀悼の意を表する。